



真城っ子

やさしさいっぱい

かしこさいっぱい

たくましさいっぱい



運動会練習練習真っ盛り

4.30 全校集会「校長講話」より

真城小学校の皆さん、こんにちは。明日から5月になり、校庭からは運動会の練習に励む元気な声が聞こえてくるようになります。5月は、待ちに待った運動会本番です。皆さんが一生懸命に走ったり、ダンスやソーラン節を練習したりする姿を見て、先生はとてもわくわくしています。

さて、ここで皆さんに一つ質問です。「今の自分は、どんな人ですか？」と考えてみてください。「走るのが得意だ」「ダンスを覚えるのが早い」という人もいれば、逆に「練習がちょっとしんどいな」「運動は苦手だな」「最後までやり遂げる自信がないな」と、自分の弱気なところが気になっている人もいるかもしれません。



(マトリョーシカ人形を見せながら) このマトリョーシカを、「今の自分」だとしましょう。中には、得意なこともあるけれど、苦手なこともあって、時には弱気になってしまう自分も入っています。しかし、この人形を一つ開けてみてください。(マトリョーシカを一つ開ける) 実は、今の自分の中には、もう一つの「新しい自分」が眠っているのです。

運動会の練習を通して、皆さんは「**たくましさ**」を鍛えていきます。「疲れたけれど、あともう一回頑張ってみよう」「転んでも立ち上がって走り抜こう」そうやって踏ん張るたびに、皆さんは殻を破り、中からもっとたくましく、もっと強い自分が顔を出します。これを「脱皮」と呼びましょう。

マトリョーシカの殻を次々と脱ぎ捨てるように、運動会当日まで、そして本番の競技の中でも、皆さんはどんどん進化し続けることができます。毎日、たくましく進化し続けるために必要なのは、次の二つです。

①変わろうとする気持ちを持つこと

②実際に行動すること

「これくらいでいいや」と思わずに、「もっとできるはずだ」「昨日の自分を超えていくぞ」という気持ちで練習に取り組んでみてください。できなかったことができるようになること、みんなのために全力を尽くすこと、それが皆さんをたくましく成長させます。



運動会の練習を終えて、夜眠るときに、「今日はあきらめずに頑張ったな」「昨日よりたくましい自分になれたな」と、進化した自分を喜んで、満足して一日を終えてほしいと思います。

皆さんが運動会の練習を通じて、マトリョーシカのように新しい自分、そして「**たくましい自分**」に成長していくことを心から応援しています。



1970年代に放送されたの丸大食品のCMで、父と子の冒険を描くものがあり、「**わんぱくでもしい、たくましく育ててほしい**」という言葉が当時流行りました。「チャレンジ(挑戦)」「我慢強さ(根気)」「努力」「向上心(夢・憧れ)」、今の子どもたちにも絶対に必要な生きる力の一部だと思います。

「粘り強くがんばること」



アメリカの大学の「粘り強くがんばる子ども」についての研究です。

4才の子どもを20人くらい集めて、その子らの目の前においしそうなマシュマロを1個ずつ置き、「今すぐ1個のマシュマロを食べていいけど、15分間待てたら、マシュマロは2個食べさせてあげるよ。」と言いました。この4才の子どもたちはどうしたかという、3分の2の子どもたちが目の前にある1個のマシュマロを食べました。そして、残りの3分の1の子どもは我慢強く15分待ち、2個のマシュマロを食べたのです。

10年以上経ってからの調査で、この子どもたちの成長の仕方と、幸福感の様子を調べたのですが、すぐに1個食べた子どもたちと、15分待って2個食べた子どもたちでは、はっきりとした違いがあったのです。

我慢強く待った子どもたちは、高校で上位の優秀な成績を収めていたのです。自信にあふれて満足度も高く、問題解決能力もあって、苦しいことを乗り越えて目標を達成することができていました。この子どもたちの共通点は、大きな目標のためには、いろいろなやりたいこと、なまけたい心を我慢して、きつい時間を過ごす能力を持っていたことです。

それに対して、1個だけのマシュマロに飛びついた子どもたちの特徴としては、強情で意地っ張り、そのくせに他人の影響を受けやすく、決断力が弱かったのです。自分に自信がもてず、何にでも不満を持って文句ばかり言い、すぐにやる気をなくしやすい高校生になっていました。大きくなってからも、きついことが我慢できず、楽しいことや楽なことの誘惑に負けてしまいやすい人になっていたので（該当するすべての子どもに当てはまるものではなく、傾向を示しているもののご理解ください）。言い換えれば、この子たちには、大きなご褒美をもらうためにじっくりと努力することよりも、今すぐに小さなご褒美をもらおうとする特徴があるということなのです。

「今、楽しいことをしたい」「今は楽がしたい」「今は、きついことは後回しにしたい」という気持ちは、「今がよければいい」ということです。将来的な、少し先の自分にとって、大きなご褒美をもらい、成功しようと思うならば、「今はきついことを我慢して頑張ろう」と考えなければなりません。



「何のために勉強するの？」

子どもに、「なんで、学校で勉強しなくちゃいけないの？」と尋ねられたら、何と答えますか。答えの一例をお示しします。

親「将来、大人になったときに、困らないようにだよ。自分自身で判断できるように、いろんなことを知っていて、いろんな考え方ができるようにしておかないとね。それから、人の気持ちが理解できるように、だれとでも力を合わせていけるように、みんなと一緒に生活してるんだよ。そして、健康で安全に生活できるように、体力をつけて、健康の知識を身に付け、命を守るすべを学んでいるんだ。」

子「ふーん。学校に行って勉強するには、ちゃんと理由があるんだね。大人になって困らないように、しっかり頑張るからね。」

真城小の先生方は、そういった子どもたちの未来に繋がる「生きた学び」へと授業の質を高めていけるように、日々研鑽を重ねています。

子どもたちが大人となり、自分らしくたくましく生きていく力を育てていく義務が、私たち大人にはあります。

